

出エジプト記15章 「解放された民の応答」

1A 歌によって 1-21

1B モーセによる導き 1-18

1C 心であがめる主 1-2

2C 戦われる方 3-10

1D ファラオの軍勢の死 3-5

2D 力ある右手 6-10

3C 約束の地へ導かれる方 11-18

1D 神々にまさる方 11-12

2D 聖なる住まい 13-18

2B ミリアムによる導き 19-21

2A 信仰の従順によって 22-26

本文

出エジプト記 15 章を開いてください、私たちの出エジプト記の学びは、エジプトから救い出されたイスラエルの民の姿を見えています。14 章にて、イスラエルの民が紅海を渡り、彼らが渡り切った後に、海の水が元に戻り、ファラオとその軍勢が死に絶えたのを見ました。エジプト人が海辺で死んでいるのを彼らは目の当たりにしました。それによって、古い人は死んだことを認めました。奴隷として酷使している者たちが死に、自分たちは真に解放された者であることを、はっきり見ることができたのです。そして私たちは、これこそが水のバプテスマの目的であることを学びました。「Ⅱコリ 5:17 ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去りました、見よ、すべてが新しくなりました。」

そこで私たちは、イスラエルの民が荒野の旅を始める場面をこれから学んでいきます。15 章から 18 章までがその部分です。19 章にて、彼らがシナイの荒野のホレブ山、シナイの荒野にあるのでシナイ山と呼ばれますが、その麓に宿営して、神がモーセによって律法を与え、彼らと契約を結ばれるところを見ます。

その始まりのところを今日は読みますが、ここで、「解放された民が、解放されたことにどのような応答するのか？」について見たいと思います。エジプトから解放されました、それでどうするのか？1 節から 21 節までが、「主に歌うことによって」応答しています。22 節から 26 節までは、「信仰をもって神の命令に従う」ことによって応答しています。

1A 歌によって 1-21

1B モーセによる導き 1-18

1C 心であがめる主 1-2

1 そのとき、モーセとイスラエルの子らは、【主】に向かってこの歌を歌った。彼らはこう言った。「【主】に向かって私は歌おう。主はご威光を極みまで現され、馬と乗り手を海の中に投げ込まれた。

主がご自分に威光を極みまで現されたことによって、モーセとイスラエルの民は主に向かって歌を歌いました。この歌は、後に神の民がうたう歌としての原型となり、イエスを信じる者が患難にて殉教した時に、天においてモーセの歌と子羊の歌をうたっています。「黙 15:3-4 彼らは神のしもべモーセの歌と子羊の歌を歌った。「主よ、全能者なる神よ。あなたのみわざは偉大で、驚くべきものです。諸国の民の王よ。あなたの道は正しく真実です。主よ、あなたを恐れず、御名をあがめない者がいるでしょうか。あなただけが聖なる方です。すべての国々の民は来て、あなたの御前にひれ伏します。あなたの正しいさばきが明らかにされたからです。」彼らは殉教して、天にいますが、それがまるで、紅海を渡ったイスラエルの民のように、自分たちは救われ、そして地上にいる獣の国の住民がこれから神の激しい憤りを受けるということを宣言し、歌っています。この世を神は裁かれ、ご自分の民を神が救われるということを歌うものです。

初めに、主が大いなることをしてくださったことを、歌にして言い表すということが、彼らが願っていたことである以上に、主が願われていることです。私たちの心の中にある感謝や賛美の思いを、歌にして言い表すことは、神の御心です。「コロ 3:16 キリストのことばが、あなたがたのうちに豊かに住むようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、忠告し合い、詩と賛美と霊の歌により、感謝をもって心から神に向かって歌いなさい。」

2 【主】は私の力、また、ほめ歌。主は私の救いとなられた。この方こそ、私の神。私はこの方をほめたたえる。私の父の神。この方を私はあがめる。

私たちが、賛美の歌をうたうのは、「主を主とすること」「神を神とすること」に他なりません。私たちは日頃、自分の力を用いて生きています。けれども、実はその中で主が働いておられ、自分ではなく主ご自身が私の力であることに気づきます。今、イスラエルにとっては自分たちにエジプトを倒す力など全くないけれども、主が倒してくださったのですから、主こそが力です。このように、主が力と賛美し、また、何か称賛したいこと、感謝したいこと、何か崇めたいことがあれば、それは主ご自身なのだということを、私たちは心の中で思います。それを歌にして言い表します。主こそ、ほめ歌です。それから、いろんな困難があり、そこからの救いがあります。何よりも自分の内にある自己中心性、罪の性質がありますが、そこから救われていること、救いとなっておられる神がおられます。ですから、主こそ救いです。イスラエルの民はもちろん、エジプトの手から主が救ってくだ

さいました。

私たちは、生活の中で、心にキリストを主としてあがめることが戦いであります。この方が主であるのを、心を尽くして、力を尽くして歌をもって言い表します。礼拝の中になぜ賛美の歌があるのか、礼拝する歌があるのか、それがここでの答えです。

2C 戦われる方 3-10

このように、主に対する歌が始まっていますが、モーセとイスラエルの民は、主が戦われる方、自分たちのために戦われる方であることを歌います。

1D. ファラオの軍勢の死 3-5

3【主】はいくさびと。その御名は【主】。4 主はファラオの戦車とその軍勢を海の中に投げ込まれた。選り抜きの補佐官たちは葦の海に沈んだ。5 深淵が彼らをおおい、彼らは石のように深みに下った。

主は、戦人であられる方です。私たちはこれを聞くと、少し驚いてしまうかもしれません。主が戦われる方なのですか？平和の主なのに、なぜ戦争などされるのですか？と。いいえ、神は平和の主であられるからこそ、争いを引き起こし反逆する勢力に対して戦い、滅ぼさないといけないのです。悪に対して正しく裁くことができるからこそ、神が神として君臨し、そこに平和が満ちることになります。教会の中に、分裂とつまずきをもたらす者が入って来た時に、パウロは遠ざかりなさいと勧めましたが、こういう言葉をもって励ましました。「ロマ 16:20 平和の神は、速やかに、あなたがたの足の下でサタンを踏み砕いてくださいます。」サタンの仕業を踏み砕くことによって、平和の神が支配してくださいます。

私たちキリスト者に対する敵からの攻撃の一つが、「断罪」です。罪から救われて、義と認められて生きているのに、様々な困難の中にいるキリスト者から、神にキリストに愛されている、神の愛からあなたがたは決して引き離されることはない、と断言しています。「ロマ 8:31-37 では、これらのごとについて、どのように言えるでしょうか。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。私たちすべてのために、ご自分の御子さえも惜しむことなく死に渡された神が、どうして、御子とともにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがあるのでしょうか。だれが、神に選ばれた者たちを訴えるのですか。神が義と認めてくださるのです。だれが、私たちが罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしてくださるのです。だれが、私たちがキリストの愛から引き離すのですか。苦難ですか、苦悩ですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。こう書かれています。「あなたのために、私たちは休みなく殺され、屠られる羊と見なされています。」しかし、これらすべてにおいても、私たちが愛して下さった方によって、私た

ちは圧倒的な勝利者です。」

今朝、フェイスブックのメッセージで、アメリカ人の知人からのメッセージが届きました。誰かの動画がリンクされていて、腕は入れ墨、車の運転席から語っていますが、ちょっと怖そうな雰囲気です。(笑)ところが、こう言う言葉から始まります。「君はほんとうにすばらしい。君は愛されている、イエス様に愛されている。今していることを、忠実に行なって。良い日になりますように。」たったこれだけの挨拶です、慰めの言葉です。でも、この言葉でどれだけ、悪魔が自分の思いから過ぎ去っていくことでしょうか！

2D 力ある右手 6-10

6 【主】よ、あなたの右の手は力に輝き、【主】よ、あなたの右の手は敵を打ち砕く。

モーセたちは、神の力を「右の手の力」と呼んでいます。右は権威や力を表します。

7 あなたは大いなるご威光によって、向かい立つ者たちを打ち破られる。あなたが燃える怒りを発せられると、それが彼らを刈り株のように焼き尽くす。8 あなたの鼻の息で水は積み上げられ、流れは堰のようにまっすぐに立ち、大水は海の真ん中で固まった。9 敵は言った。『追いかけ、追いつき、略奪したものを分けよう。わが欲望を彼らによって満たそう。剣を抜いて、この手で彼らを滅ぼそう。』10 あなたが風を吹かせられると、海は彼らをおおい、彼らは鉛のように、大いなる水の中に沈んだ。

主が、エジプトの軍勢を海の底に沈ませたことを、勢いよく表現しています。燃える怒りによって、焼き尽くされた刈り株のようになったという言い回しもしています。また、敵がどうして追いかけていたのか、イスラエルを奴隷としてまた使いたいと貪っている姿も表しています。こういった敵が、今や沈んだのだと言っています。ですから、主の右の手は、このように力強いです。私たちが知らなければいけないのは、ロマ 8 章にあったように、これらの困難の中にあっても、圧倒的な勝利者になっているということです。使徒ヨハネも言いました、「Iヨハ 4:4 あなたがたのうちにおられる方は、この世にいる者よりも偉大だからです。」

3C 約束の地へ導かれる方 11-18

そしてモーセの歌は、今、目撃したことに留まりません。ここからは信仰によって、先に神が先に用意しておられることを見て行くこととなります。つまり、この荒野の旅から約束の地に導かれることについての歌になります。そうです、私たちの歌は過去の救いに留まりません。神が罪から救ってくださったことを喜ぶだけでなく、これから救いを完成していただき、神の国の中に入れてくださることも、前もって信仰によって喜び、賛美するのです。

1D. 神々にまさる方 11-12

11 【主】よ、神々のうちに、だれかあなたのような方がいるでしょうか。だれがあなたのように、聖であって輝き、たたえられつつ恐れられ、奇しいわざを行う方がいるでしょうか。12 あなたが右の手を伸ばされると、地は彼らを呑み込んだ。

モーセたちは、今、主ご自身と、他の神々と呼ばれるものを比べています。神と呼ばれているもの、主と呼ばれているものの中で、ヤハウェのような方がおられるのか？ということです。聖いことについて、他の神々は欲望をむき出しにしています。また、これほどまでに奇しいわざをすることはあるのか、ということでもあります。敵どもを地上が呑み込んだとありますが、海の中のことを地が呑み込むというのは、聖書の中では地の中、海の中が陰府、死者の降るところとされているからです。そして、そこで閉じ込められ、最後の裁きの時によみがえり、裁かれて、永遠の滅びに定められることを意味します。

私たちのような主が、他のあるのか？ということ、その至上性、比類なき様をみて、私たちは主イエス・キリストを信じています。この方以外に、救われるべき名としては天下に与えられていないとペテロが宣言した通りです。

2D. 聖なる住まい 13-18

そして、このことに基づいて、約束の地に入ることについての確証を得ます。

13 あなたが贖われたこの民を、あなたは恵みをもって導き、御力をもって、あなたの聖なる住まいに伴われた。

「聖なる住まい」と言っていますが、これはエルサレムにて神殿をソロモンが建てる場所までを予見して、話しているのです。はるか500年先のことを予告しています。列王記第一6章1節に、こう書いてあります。「イスラエル人がエジプトの地を出てから四百八十年目、ソロモンがイスラエルの王となってから四年目のジブの月、すなわち第二の月に、ソロモンは【主】の家の建築に取りかかった。」出エジプトの時から480年後に建築にとりかかりました。主の神殿は七年間かかり、王の宮殿には十三年かかりました。ですからちょうど、500年後にエルサレムの建築が終わり、聖なる住まいに伴われたというこの言葉が、実現します。

私たちが、神に救われたのだから、これからも救ってくださるという確信を得ることになります。主によって救われたという体験をすれば、それだけ今も、そして将来も救ってくださるという力を得るのです。「Ⅱコリ 1:10 神は、それほど大きな死の危険から私たちを救い出してくださいました。これからも救い出してくださいます。私たちはこの神に希望を置いています。」

そして、「贖われた」とありますが、これは救われて、神の所有のものとされた、ということです。ただ救われたのではなく、神のものに引き寄せられた、神のものにされたということです。それから、「恵みをもって」とあります。主が恵みによって、救いを完成して下さいます。恵みによって救われただけでなく、恵みによって救いを完成して下さるのです。救われたから、後は自分の努力で救いを達成しなければいけないとするのは、救いを否定していることになります。

14 もろもろの民は聞いて震え、ペリシテの住民も、もたえ苦しんだ。15 そのとき、エドムの首長らは、おじ惑い、モアブの有力者たちを震えが襲い、カナンの住民の心はみな溶け去った。16 恐怖と戦慄が彼らに臨み、あなたの偉大な御腕により、彼らは石のように黙った。【主】よ、あなたの民が通り過ぎるまで。あなたが買い取られた民が通り過ぎるまで。

イスラエルの民が、荒野の旅をして、それから約束の地に入る時に、その周囲の諸国民がいかに、震えおののくことになるのかを描いています。ペリシテ人は、地中海沿岸の南のところ、今のガザ地区の辺りに住んでいました。イスラエルの民に対して、絶え間なく戦いをしかけてきました。士師の時代のサムソンの時のことを思い出してください。けれども、サウルが王として選ばれ、それからダビデが選ばれ、ダビデの時にペリシテ人は歯向かうことはなくなりました。そして、エドムですが、モーセたちが約束の地に向って北上する時に、彼らが通過するだけなのに戦いの準備をして挑みかかりました。神は戦ってはならないとイスラエルの民に命じたので、迂回しました。けれども、このエドムもまたダビデが王となってからイスラエルに服することになります。そしてモアブも同じです。モーセに対して戦いを挑む態勢をとりましたが、神は彼らは親戚だからということで戦いを避けるように命じられました。けれども、ダビデの時にイスラエルに服しています。最後に、カナン人ですが、聖絶の対象にされていますから、エリコの町を始め、彼らは滅ぼされることが目に見えていました。

これらはみな、主がエジプトから彼らを救って下さったことを見聞きして、また彼らと共にいる主の臨在を彼らなりに感じたからでしょう。このように主は、ご自身が買い取られた民を、最後まで守って下さるということです。

17 あなたは彼らを導き、あなたのゆずりの山に植えられる。【主】よ、御住まいのために、あなたがお造りになった場所に。主よ、あなたの御手が堅く建てた聖所に。18 【主】はとこしえまでも統べ治められる。」

このようにして、後にシオンの山に町を持たせて下さること、そしてそこにご自分の御住まいをお造りになられることを約束しておられます。ソロモンの建てた神殿も、ヘロデが改築した第二神殿も滅びましたが、ここで言っている主ご自身の建てた神殿とは、終わりの日の、神の国の神殿も幻として持っていることでしょう。そして主がそこから治められるのです。

つまり何を意味しているのか？主は、ご臨在をもって、栄光を輝かせることをもって、人々の礼拝と賛美の中でご自身を表されることをもって、全てを支配されることです。このことは、今は教会によって、人々の集まる所でイエス様の御名が呼び求められるところで、保たれます。そして神の国でこれが目に見える形で実現します。私たちがいかに、その時がくるまでしっかりと、主の御名をあげ、この方に支配していただく生活を保っているかが大事なのです。「ヘブ 10:23-25 約束してくださった方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白し続けようではありませんか。また、愛と善行を促すために、互いに注意を払おうではありませんか。ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。」

2B ミリアムによる導き 19-21

19 ファラオの馬が戦車や騎兵とともに海の中に入ったとき、【主】は海の水を彼らの上に戻された。しかし、イスラエルの子らは海の真ん中で乾いた地面を歩いて行った。20 そのとき、アロンの姉、女預言者ミリアムがタンバリンを手にとると、女たちもみなタンバリンを持ち、踊りながら彼女について出て来た。21 ミリアムは人々に応えて歌った。「【主】に向かって歌え。主はご威光を極みまで現され、馬と乗り手を海の中に投げ込まれた。」

ここで、久しぶりにミリアムの姿が出てきました。生まれたばかりのモーセをナイル川の中に隠していた時に、ファラオの娘が見つくて、その時、母親を連れて来て乳母にすればよいでしょうといったのが、彼女です。彼女の弟のアロンがモーセと共にエジプトからの脱出に関わり、後に彼は祭司となります。そしてミリアムも、このように賛美を導く人として神に用いられていたことが分かります。ここでタンバリンを使っていますが、この時から楽器を使って歌を導いていたことが分かります。先のモーセの歌は、実はミリアムのリードに合わせて歌っていたことがわかります。ここに出て来る歌詞が同じだからです。このように、楽器をもって賛美リードがありますが、天においても立琴であるとか、楽器の音色が賛美の中で聞くことができます。

そして、とても生々しい話、残念な話が民数記に出てきます。ミリアムがモーセが異邦人の妻を持っていることで中傷しました。モーセだけが主に示されているのではないとして、妬んだのです。そのために、ミリアムは一週間、らい病にかかりました。ここから、主に用いられる器のために、賛美などの霊的な奉仕をする人々のために、私たちが執り成して祈らなければいけないことがよく分かります。

2A 信仰の従順によって 22-26

ここまでが、賛美の歌をもって解放されたことに応答していることを見てきました。次に、「信仰によって神の命令に従うことによって、応答する」ことについて見て行きます。

22 モーセはイスラエルを葦の海から旅立たせた。彼らはシュルの荒野へ出て行き、三日間、荒野を歩いた。しかし、彼らには水が見つからなかった。

シュルの荒野は、シナイ半島の北にある荒野です。荒野と言っても、私たちには一つにしか見えませんが、実はいろんな色があります。イスラエルには北からツインの荒野があり、もっと南にパランの荒野があります。ツインの荒野は冬には緑の芝生が広がり、花も咲き乱れます。けれども、パランの荒野は、岩ばかりでごつごつとしています。シュルの荒野に至っては、本当に何も無い荒涼としたところで、はっきりいって恐ろしかったです。そして、そこに水がなく、三日間あるいていました。三日というのも、興味深いです。イエス様が三日目に甦られました、そのことと関連がありそうです。

23 彼らはマラに来たが、マラの水は苦くて飲めなかった。それで、そこはマラという名で呼ばれた。
24 民はモーセに向かって「われわれは何を飲んだらよいのか」と不平を言った。

マラ、というのは苦いという意味です。なんか、虫がたかっている水であったのでしょうか、とにかく飲めたものではありませんでした。そこで、「不平」が始まります。イスラエルの民は、不平で始まって、それでついにその不平の声をもってエジプトに戻ろうとする決意で、荒野で滅ぼされます。民数記のカデシュ・バルネアのところでそうになりました。けれども、これから彼らは、主が救ってくださった方だけでなく、備えてくださる方であることを体験するようになります。エジプトから救われただけでなく、荒野で備え、守ってくださる方なのです。私たちも、同じです。主はこの地上にいる時も、備えてくださる方だということでもあります。

25 モーセが【主】に叫ぶと、【主】は彼に一本の木を示された。彼がそれを水の中に投げ込むと、水は甘くなった。主はそこで彼に掬と定めを受け、そこで彼を試み、26 そして言われた。「もし、あなたの神、【主】の御声にあなたが確かに聞き従い、主の目にかなうことを行い、また、その命令に耳を傾け、その掬をことごとく守るなら、わたしがエジプトで下したような病気は何一つあなたの上には下さない。わたしは【主】、あなたを癒やす者だからである。」

モーセは、ファラオとの対決の時にしたように、主に対して叫びました。その時に、なんと不思議なことに一本の木を示されました。それを水に投げ込みなさいということでした。一体、なんで？と思うことでしょう。けれども、主がそう言われるのでしたらということだけで、主に信頼して従うのです。そうすると、水が甘くなる、つまりきれいになりました。ここには、イエス様が十字架に付けられ、それで罪によって汚れていた水が、その流された血によって清められ、また御霊が注がれるということを示しているかもしれません。

大事なものは、主が、「もし、あなたの神、【主】の御声にあなたが確かに聞き従い、主の目にかな

うことを行い、また、その命令に耳を傾け、その掟をことごとく守る」なら、ということです。主の語られたことに、それが何でそう言われるのか分からなくても、それでも主を信じて従うということです。そうすれば、いろいろな病があっても、それから守られるという約束があります。レビ記には、清めと汚れについての戒めがあります。血を食べてはならないという戒めなど、病原菌のない状態の肉を食べるなど、確かに病から守られる役割を担っていたことでしょう。

主はまた、癒す者、「ヤハウエ・ラファ」であることを示されました。主は、「わたしは、わたしはある、というものである。」と言われましたが、癒しになってくださったということです。これは、病の中にいる人々にとっては、慰めとなる約束です。ヤコブの手紙に、こうした約束があります。「5:14-15 あなたがたのうちに病気の人がいれば、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。信仰による祈りは、病んでいる人を救います。主はその人を立ち上がらせてくださいます。もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。」

27 こうして彼らはエリムに着いた。そこには、十二の水の泉と七十本のなつめ椰子の木があった。そこで、彼らはその水のほとりで宿営した。

すばらしいです、三日目に試されましたが、その主からの試しを通った後に、主はオアシスを用意してくださっていました。エリムは、スエズの南にあります。私たちの信仰の旅のようですね、信仰が試されますが、その後で主は魂の潤いを与えてくださることが多いです。ここでの、「十二の水の泉」はイスラエル十二部族を象徴しているかのようです。さらに、「七十本のなつめ椰子」の木ですが、七十人の長老がイスラエルの民にはいました(民数 11:24)が、神の完全数を表しています。なるで、神の御国にある至福のようです。

こうして、イスラエルの信仰の旅が始まりました。私たちキリスト者の旅も、信仰の旅です。一步一步、与えられる備えの中で生きています。そして、主に歌をささげることは、御心にかなったことであり、この方が主であることを心で確認する作業であります。